

第2回防災・防犯部会（H30.10.16）における主な意見

資料1-3

NO	委員名	主な意見	対応方針・対応
1	宮本委員	<p>台風24号に伴う臨時避難場所開設について、日頃から訓練をしている防災リーダーに連絡が欲しかった。</p> <p>防災リーダーも常時トランシーバーを携行していないなどもあり、MCA無線とトランシーバーを連携した、連絡体制も再度検討してほしい。</p>	<p>今回は臨時的な自主避難場所開設のため、地域活動協議会会長に情報提供として連絡を入れており、防災リーダーには連絡を入れていなかったが、今後は、状況に応じて地域からの協力もいただきながら対応していく。</p> <p>なお、開設時には地域活動協議会会長および防災リーダー隊長に連絡する。また、自主避難場所の体制については、地域と調整していく。</p> <p>MCA無線は区本部と地域との連絡用で、トランシーバーは地域内での情報収集等に活用してもらうものであり、地域防災連絡会の場で再度周知を図っていく。</p>
2	西口委員	<p>臨時避難場所において、ラジオの電波状況が悪く台風24号情報が聞こえにくかったので、対策をしてもらいたい。また、自家発電装置等電源を確保してもらいたい。</p>	<p>性能がよい手回式ラジオの配備を検討しているが、災害時の情報収集にはSNSの活用も有効であることを広報していく。</p> <p>現在、各避難所にガスボンベ式の自家発電機を配備している。防災訓練時等で活用いただき、使い慣れていただきたい。</p>
3	田中 (潔) 委員	<p>災害時の臨時避難場所を開設・閉鎖する場合を含め連絡体制や対応をマニュアル化するなど再考してもらいたい。</p> <p>また、いろいろな災害を想定して訓練するのは費用と時間がかかるので、机上訓練の実施を考えてみてはどうか。</p>	<p>連絡体制等対応について検討する。</p> <p>また、DIG（災害図上訓練）やHUG（避難所運営ゲーム）といった図上訓練は地域でも取り組んでおり、今後も活用していく。</p>

NO	委員名	主な意見	対応方針・対応
4	岡出委員	<p>台風 24 号の際、他の地域の住民（校区外）が避難してきた。災害時に地域内の住民の避難に加え地域外の住民が避難してくるとなると、避難所が混乱する可能性があると思うがどんな想定になっているのか。</p>	<p>南海トラフ地震や上町断層地震の想定避難者数は出ているが、必ずしも地域住民が全員、避難してくるとは限らない。今回のような風水害における避難者数は想定されていない。自宅の安全が確認できれば在宅避難も考慮してもらいたい。</p> <p>なお、区災害対策本部長は避難者数の過多に応じて避難所間の調整を行う。</p>
5	内野委員	<p>災害時地域貢献協力事業所の所在地だけでなく、協力内容といった情報を地域と共有するとともに、協力事業所に訓練参加を呼びかけていただきたい。また、小学校に避難していくまでにある協力事業所は、災害対応が見込まれる避難場所でもあると思うので、そこで何ができるか地域と情報共有等すればよいと思う。</p>	<p>災害時地域貢献協力事業所の中には、避難場所として利用の申し出がある事業所もあれば、利用が難しいとの回答をいただいている事業所もある。今後は、訓練参加を含めどのような利用が可能か再度調整し、地域と情報共有していく。</p>
6	西村委員	<p>今回、高齢者の方が避難に来られたが、風にあおられて危険に感じるがあった。災害の種類によっては、自宅に留まってもらうことや、避難するタイミングも違うと思う。</p>	<p>風雨等が強くなる前に、早めの避難ができるように周知していきたい。また、時間帯によっては、不要・不急の外出は控えていただくことを周知していく。</p>
7	松原委員	<p>地震により高槻市や茨木市で避難所開設された事例などを自治体職員へヒアリングするなどし、今後の取組みに活かすのは大事だと思うが行っているのか。</p>	<p>相手市の状況が落ち着き次第、大阪市の危機管理室がヒアリング等を行うことになる。2年前の熊本地震では、区からも応援に行き、現地で自治体職員へ聞き取りも行い、職員防災マニュアルの改定等の参考にした。</p>

NO	委員名	主な意見	対応方針・対応
8	宮本委員	防犯カメラは、交通安全なのか、犯罪防止なのか、 どういう目的・順序で設置しているのか。	街頭犯罪の減少をめざし、安全で安心なまちづくりに寄与するために必要と考え設置している。設置個所については、危険個所等の実情をよく知る地域に選定していただいている。
9	田中 (潔) 委員	防犯カメラのメンテナンスは地域の問題だが、地域での引継ぎがうまくいっていないことがある。 誰が引き継ぐのか等、メンテナンスのルール作りが必要ではないか。	鶴見区地域安全防犯カメラ支給要綱により、設置は区役所が行い、維持管理は地域にお願いしている。 区役所としては、防犯カメラの鍵や、防犯カメラが地域のどこに設置されているのかを示した地図を地域に渡しているのので、その資料等を活用しながら、各地域でルール作りをしていただきたい。
10	田中 (潔) 委員	各地域均等に防犯カメラを設置するのではなく、その一部については、関係者で危険か所について議論したうえで、設置してはどうか。	警察から各地域に対し、犯罪発生状況など情報提供もあり、危険個所などは、地域が一番実情を知っているため、引き続き地域の実情に合った選定をしていただき、その地域要望に応じていく。
11	西口委員	自転車の乗り方のマナーが悪く、何度言ってもわかってくれない。自転車も講習を受けて許可書を発行し、許可書がないと自転車を購入できない仕組みができないか。	許可書による自転車購入の仕組みづくりは法的なこともあり困難である。 交通マナーの向上に向けて、スタントマンによる交通事故の模擬再現を行う交通安全教室（スケアード）を今年度も行った。 実際、目で見て確認いただく有効な取組みと考えており、周知に努め、多くの方に来ていただけた。

NO	委員名	主な意見	対応方針・対応
1 2	岡出委員	<p>交通安全教室等に来る人は、大体交通ルールを守られる方が来られると思うので、それ以外の交通ルールを守らない人をどのようにして集めるかが大事だと思う。</p>	<p>交通安全教室実施時のアンケートで、これまで守っていなかったが今後は交通ルールを守るという意見もあった。今後も、交通ルールを守らない人も含め、多くの方に参加いただけるよう広報に努める。</p>
1 3	松原委員	<p>交通ルールを守らず自転車事故を起こした時に大きな金額を損害賠償請求された事例などを提示し、リスクを示すことで、交通ルールを守ることの大切さをアピールできればよいと思う。</p>	<p>中学生・高校生や子育て層などいろいろな世代に向けても交通安全教室などを工夫しながら実施している。</p> <p>高校生への教室では、事故を起こした場合の責任、賠償請求などの事例も含めて実施している。</p> <p>引き続き関係機関と連携し取り組んでいきたい。</p>